

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600070		
法人名	医療法人 田中会		
事業所名	グループホーム陣内		
所在地	熊本県菊池郡大津町陣内1167-5		
自己評価作成日	令和3年11月	評価結果市町村受理日	令和4年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和3年12月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設型のグループホームという点で栄養、リハビリ等の職員が直接ホームに足を運び入居者様の生活の様子を把握し職員が相談し、問題に向け一緒に支えることができています。入居者様の介護度も随分軽くなってきており、自分達でできることが増えてきており、又互いにいい刺激となっているようです。このコロナ禍の中、面会等制限もありますがご家族様の様々な早期対応で、入居者様がホームで安心して生活できているのもご家族様のおかげです。併設の老人保健施設での感染対策を元に徹底した感染対策をホームでも取り入れています。今では入居者様もその生活に慣れ、体調を崩される事はありませんでした。外出等もほとんどできていませんが、ホーム周辺の散歩や、日々の日常生活のお仕事、レクリエーションなどで毎日楽しんで生活されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療や理学・作業療法士、音楽療法士など法人の持つ機能を生かしたホームは、日頃の健康管理や急変時の対応、個々の身体機能に応じた環境へのアドバイスにより、入居者の安全で穏やかな日常生活に繋がっている。家族からも「日頃の生活の中で、できる事を一緒に行ってもらうことで、毎日いきいきと過ごしています」など感謝の言葉が寄せられている。コロナ禍にあり開設時から継続されていた近隣や地域の人々、保育園児との交流も控えており、現在は、外出がすぐに出来るベランダを使って敷地内の散歩やホーム内での楽しみ事などを中心に支援している。法人理念である「最後まで寄り添うケア」を掲げ、予防から看取りまでを支援しており、今後も入居者・家族との長い関わりを大切に運営されることが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目の届く所に掲げています。理念の内容は変更せず、日頃から毎月のミーティングでケアの振り返りを行い理念を確認しています。	法人施設の一角に建つホームは、「一人ひとりに最後まで寄り添う」とした法人共通の使命感をもってケアにあたるよう努めている。職員交代があった中で入職者には自然な形で入ってもらい、自身の意識を高めてもらいたいとしている。また、管理者は在職者の立場から馴染みの関係であるが故に馴れ合いにならず、個々を尊重した支援に徹する事をケア会議などで振り返るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ここ2年間、コロナウィルス感染対策のため、地域との交流はできておりません。最近になり少し地域の方の顔を拝見する機会が増えてきて、互いに心配しあう会話がありました。	今年度は例年のような地域交流の機会がなく、外出が制限されたことで地域代表者へ運営推進会議の資料を手渡ししながら、ホームの情報を発信して関係継続に努めている。入居者は職員と共に徒歩や車いすで広い敷地を散策し、見慣れた地域を目にすることで籠もりがちな生活にならないように工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の資料の中でホームの入居者の方をご紹介します。入居者様の情報や支援方法など伝えています。又町からの依頼があった際認知症サポーター養成講座にも足を運んでいます。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は開催できておらず、資料配布しています。資料の内容はホームの現状、活動報告を行っています。配布後の意見が殆どなく、配布の際に確認したり、情報交換したりしています。	運営推進会議の通常開催が出来ない事で、入居者の現状や事故報告、行事や地域交流の状況などを書面にして行政及び地域関係者に配布している。資料等を直接手渡すことでその場で意見を引き出しており、文章の表現方法について、寄せられた提案に読み手にわかりやすいように心がけるなど早速改善が図られている。	コロナ禍により現在まで書面審議として会議を継続しており、身体拘束についてもホーム内研修の報告などを以前のように発信されることが必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町からメールや電話での情報発信がその都度あります。分からない点は直接電話や足を運び確認をしたり、相談を行い、ホームの状況を伝えています。	職員は電話やメールでの行政からの伝達に対応し、必要によっては足を運び担当者と直接会話しながら質問や相談事に応じてもらうようにしている。運営推進会議の資料を通じてホームの現状を発信しており、透明性のある運営を展開している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会やミーティングの際日常生活での気づきをあげ、拘束では無いかなど確認しています。玄関は夜間を除き施錠しておらず、外へいつでも出れるよう環境作りおこなっています。夜間帯は安全確保の為に戸締りや転倒のリスクの高い方に限ってはご家族様の同意を得てベット等にセンサー設置させて頂いています。	身体拘束について勉強会やミーティングで職員からあがった課題点について検討、分析している。安全確保のために必要と思われるセンサーの解除バーの固定化や鈴の使用について常態化が不適切ではないのかなど、一つひとつの事例を検討している。法人のストレスチェックの実施や、管理者は普段から職員のメンタルに配慮して意見を聞くようにしている。	センサーや鈴の使用については家族に説明し了承を得ているが、継続して使用状況を伝えたり、必要のない場合などについて更に話し合いを進められることが期待される。また、言葉使いについて今後も課題として取り組む意向である。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、年に一回職員のストレスチェックを行い自己点検を行っています。日頃から職員へミーティングの際、目に見えない虐待(言動)に関して確認し合ったり、ニュース等で取り上げられている情報を共有したりしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に参加し理解を深めています。(ホームでも勉強会実施予定)ご家族様からの質問、相談があった場合には真摯に対応できるよう、不明点などは老健の統括部長やセンター長と相談しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の事前面談や重要事項説明を行いご本人様、ご家族様の理解、納得を図り不安、疑問のない状態で入居頂いています。料金改定の際は早めに電話での説明を行い、後日書類郵送し確認をして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ここ2年間、家族会を開催できておりません。面会も制限があり、短時間の中でご家族様の意見を確認したり、ご指摘やご要望などあった場合はホームにて検討しています。しかし後日ご家族様への回答までは至っておりません。	家族へは広報紙(ぼっぼ通信)で入居者やホームの様子を伝え、安心してもらうようにしている。社会の状況を見ながら面会時間や方法を検討しているが、入居者からは家に帰ってみたいとの言葉が聞かれるようである。職員は入居者との自主メニューの日をホーム活動の一つとして希望メニューの聞き取りや手作業への関わりを大切にしており、「団子汁が食べたい！」などの要望に応じている。	熊本地震後新たに建てられた庁舎が稼働しており、そのことを理解されている入居者が「行ってみたい！」との要望を出されている。コロナの状況を見ながら是非実現されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティング前に職員の意見や提案を聞いています。その際に確認し合いその都度業務改善し実践しています。ホームの職員以外にもセンター長にも参加して頂き、職員の意見や思考などの確認を行って頂いています。	月の会議はケア会議を兼ねており、入居者の状況を共有して支援内容を評価、検討している。課題を毎回設定しており、休み時間の取り方や勤務体制、希望休や有休取得など業務改善に向けた活発な意見も出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体での年に2回、目標管理シート・職務シートで自己評価し上司との面談を行っています。評価によって賞与に反映されて向上心を持って働ける様な環境が整備されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に参加したい研修や、専門性を高めるための資格取得を進めています。研修参加によってケアに対しての思い、自らが持つ知識の再確認できています。最近ではオンラインでの研修内容が再度他職員も見れるような体制作りができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡会がありますがここ2年間はコロナウィルス感染対策のため交流はできておりません。直接、電話での聴き取りやFAX資料などで情報確認しています。又、オンラインでの情報交換会に参加し、事業所の現状確認や情報交換することができました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様、ご家族様にホームでの生活の要望を確認して安心して生活して頂けるよう努めています。又これまでの生活歴についても情報収集しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナ禍の為なかなか面会ができず、細目に電話等で生活の様子をお伝えしています。ご家族様からは安心の声が聞かれていました。その際サービスについての要望もその都度伺っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様ご本人のADLの見極めを行い、何ができるのか、どんな支援が必要か職員と話し合う機会を毎月設けています。又ご家族様の意向も伺いサービスに取り入れています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	月に2回一緒に調理をする日を設け、一緒に食事作りを行ったり、食べたりしています。又毎日の日課で朝から洗濯物干しやたたみ、食器洗いなど、入居者様それぞれの役割を持って取り組まれています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子を面会時や電話、ぼぽぼ通信でお伝えしています。又必要な物品の購入などご家族様に相談させて頂き持参させて頂いています。季節の花の持参も多く入居者様、職員も喜んでます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中ふるさと訪問は中断しています。ホームの窓ガラス越しで携帯電話を使用し、ご家族様と面会を行っています。又以前通われていた通所のご利用者様やその職員さん等に会いに行ったりして関係が途切れないよう支援しています。	入居者は家族の面会を心待ちにされており、10月からは窓越し面会から庭先での面会が可能になりひと時を楽しまれているようである。ホーム調理で野菜の下ごしらえや洗濯物の干し・たたみ、庭先の落ち葉掃除など出来る事でホームの一員として馴染みの仕事に関わり、個々に新聞を広げたり編み物を楽しむなど趣味の時間を持っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	感染対策の為各テーブルにアクリル板を 使用していますが、一緒に作業をしたり調 理をができるよう支援しています。又入居 者様同士でトラブルになりそうな時は職員 が間に入り楽しい雰囲気作りに努めてい ます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	散歩中に以前通われていた通所に立ち 寄って職員さんや、ご利用者様に声を掛 けたりし、関係を保っています。又退居さ れたご家族様がホームにふらっと立ち寄 られ世間話をして帰られる事もありがたく 思っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日頃の関わりの中でご本人の思いを汲み 取っています。その声を元にミーティング で取り上げ話し合っています。そして入居 者様、ご家族様の意向を聞き、ケアプラン の作成を行っています。	職員は入居者と1対1になった時にゆっくりと 話を聞くようにしており、口頭での表現が難 しい場合などその時々気持ちを押し量り、 理解するようにしている。また、職員の一方 的な思い込みや想像で入居者の出来る事、 出来ない事などを線引きする事の無いよう に心している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居の際に基本情報はありますが再度ご 家族様や関わりのあった方などに生活歴 等を伺っています。又ご本人様との対話 や入居者同士の会話を傾聴しながら様々 な情報把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で様々な作業などをまずは 「やってみる」ことから始めています。難し い時は職員が付き添い声掛けをし支援し ています。。申し送りで24時間の把握と1 日2回のバイタチェックを行い心身状態の 変化がないかに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今年度から入居者様が安心して安全に暮らせるよう、医師は勿論、栄養科、リハビリ科との職員と共に入居者様から要望等伺い課題に沿った計画を立て、評価を行いその都度話し合っています。	入居者の持てる力を引き出し、レクリエーションや行事への参加を促しながら他者との交流を深める等、個々に必要な内容をプランに盛り込んでいる。法人との連携により医師をはじめ、理学療法士、作業療法士、栄養士などが指導する個別機能訓練計画書により支援し、薬剤師による訪問薬剤管理指導により、服薬の相談なども各プランに反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者様の言動、行動を細かく介護記録に残しています。(写真などにも残している)それ以外にも申し送りノートを活用し情報共有しています。また記録を元にケアプランの見直しに役立っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な物品でご家族様の対応が難しい際は入居者様、ご家族様と相談し職員が支援しています。又ご本人の状況に応じクリニック受診や往診、必要時は専門医の受診等の支援も行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理容店や又、行きつけの美容室を利用して、その際には互いに昔の話をしたりと楽しみに繋がっていたと思います。防災に関してはホームへの立ち入りがなかなか難しい状況であり、訓練等実施できていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1~2回連携医のクリニック受診を行い健康管理に努めています。体調変化があった際はその都度連携医に相談し指示を仰いで頂いており、早期対応ができています。又専門医受診の際はご家族様にも速やかに報告し送迎等の支援を行っています。	本人・家族の同意のもと基本的に法人クリニックをかかりつけ医とし、月1~2回の受診を支援しており、散歩の機会ともなっている。専門医については家族の受診対応を依頼し、結果を共有している。口腔ケアは、自立の方の見守りや職員による歯磨き支援を行い、中には定期的に歯科衛生士の訪問でチェックやケアを受ける方もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設する老人保健施設の看護師に体調変化や皮膚状態など気づいた時はいつでも相談し対応して頂いています。夜間帯もオンコール体制を取っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はクリニックから入院先の病院へ情報提供書を出して頂いています。ホームからも情報提供書を作成し入院先でも同じケアを受けることで混乱なく治療に専念できるよう支援しています。協力病院が指定してあります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、ご家族様に急変時の蘇生意思表示記録を事前に聞き取りを行っています。又終末期についても安心してホームで暮らせるよう、ご家族様、ご本人様に説明を行い、意見や意向を確認の上、支援できるよう体制作りを行っています。	入居時に看取り支援を行うことを伝えており、体調の変化から支援が必要になった時点で、あらかじめ家族と話し合う機会を持っている。この4月看取りを行った際は、可能な限りチェアを使った入浴や清拭により気持ち良い時間を持ってもらい、食事でも食べられるものを口にしてもらえるよう、栄養課や家族の協力が得られている。支援後は本人を偲びながらカンファレンスを開催している。	ホームでの看取り支援の希望や医療支援など面から、隣接する老健施設への転居も行われている。今後も本人・家族の思いをくみ取りながら、日頃の関わりを大切にしたい支援の継続が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し、電話の傍や職員が目につくところへ備えています。同一建物内に救急カート、AEDの設置をしてあり、使用方法など把握できるようにしています。(勉強会の予定あり)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の備蓄に関しては食料品以外はホームで管理しています。まずどこへ避難するか職員全員が把握できるよう、日頃から確認するようにしています。併設の老人保健施設が地域の避難所となっており、地域の方へは以前から呼び掛けています。	併設施設と連携を図りながら、地域避難所として尽力している。有事の際の避難については、全職員の共有を図っているが、定期的な災害訓練については、十分ではない事を語っている。	火災や自然災害、防犯などあらゆる災害を想定し、定期的な訓練の開催が望まれる。また、本体で確保している災害備蓄についてはホームでもリストの管理が必要と思われる。取組が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りの際は個人が特定できないよう、部屋番号で伝えています。排泄の有無に関してはご本人様の羞恥心に配慮した声掛けやジェスチャーで確認をしています。又職員が居室に入室の際は不在であっても声掛けしノックをして訪室しています。	個人情報や守秘義務の徹底、尊厳に配慮した支援については、研修会などで共有を図っている。在室の有無に関わらず声掛けやノックによる了承、呼称は苗字での対応を基本とする事、難聴気味の方には、耳元でゆっくり会話を行う等取り組み内容が聞かれた。声のトーンや馴れ合いの言葉使いなど、気になる場面もあるとして、引き続き課題にしていきたいとしている。	声のトーンや口調、馴れ合いの言葉使いなど職員の対応で全体の雰囲気や環境として定期的な振り返りの機会が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や仕草でご本人様の思いや希望を汲みとれるよう、日頃のコミュニケーションを大事にしています。1対1で話すなどご本人様それぞれが話しやすい、伝えやすい環境を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様それぞれの日課に合わせ、ご本人様のペースで過ごせるよう配慮しています。余暇時間があれば体操や作品作りなど充実した生活が送れるよう支援しています。どうしても都合の悪いときなどは説明を行い、了承を頂き、変更等していません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身支度は声掛けしながらできる限りご本人様に行って頂いています。不十分なところは職員が手伝ったり、ご本人様がやりやすいよう支援したりしています。衣類の選択はご本人に尋ね、季節や室温にも配慮しいた提案をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月の自主メニューやおやつ作りを実施し作る楽しさを実感して頂き、食べる意欲にも繋げています。食後の茶碗洗い、盆拭き等を促し役割を持ちそこで満足感を感じれるよう支援しています。又使いやすい食器なども工夫しています。	ご飯のみホームで炊き、副菜などは隣接施設厨房で調理されている。毎月、自主メニューの日を設け、要望や季節も考慮しながらホームで調理している。入居者もキュウリを切ったり黒砂糖をつぶすなど出来る事に関わってもらっている。また、誕生会では手作りケーキで祝っており、喜ばれている。昔ながらのおやつ(焼きだご)を作った際は、昨今軟らかく食べやすい物に慣れておられるからか「こら硬かね～！余計には要らん！」の言葉が返り、笑い声があっがたようである。	現在職員は弁当を持参し、自主メニューの時は同じものを食べている。入居者も自分の出番を心待ちにされており、職員に「食器洗おうかね！」と毎日声を掛けられるようである。今後も栄養面に加え、楽しみとなる食事支援への取組に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し、摂取状況を把握できるようにしています。ご本人様には食事を楽しんで頂けるよう、その都度話を聞き、栄養士に相談しています。又ご家族様にも協力を頂き飲み物、ふりかけ等を持参頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けを行っています。義歯の取り外しや装着、磨き残しなど不十分な所の介助を行っています。歯科衛生士にも訪問して頂き口腔内の相談や異常などの早期発見に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表に記入し、排泄パターンや排泄間隔が把握できるようにしています。下着やパット類などの選定を行いご本人様に不快を与えず気持ちよく過ごして頂けるよう支援しています。食後はトイレに座る習慣を意識付け声を掛けています。	職員は個々の排泄パターンを共有し、声掛けや誘導もプライバシーに配慮しながら支援を行っている。使い分けを検討したパットを併用しながら布パンツやリハビリパンツで過ごされる方が殆どであり、日中はトイレでの排泄を基本に支援している。夜間のみオムツへの変更や1名はポータブルトイレを使用されており、小まめに確認し始末しており、日中はクロスを掛け管理している。夜間自立でトイレに行かれる方もおられ、継続できるよう見守りにも十分配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難時は下剤や坐薬を使用していますが、できる限り自然に排泄できるよう、水分を多く摂って頂いたり、散歩等で適度に体を動かしたり、便秘しないよう、取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調が優れない、拒否があった場合は次の日に入って頂くなど臨機応変に対応しています。職員の勤務上の都合で午後からの入浴という時間に限られおり、本当の希望に添えているか厳しいところです。	基本的に週2回、午後からの入浴を、不公平にならない順番を決め支援している。体調が優れなかったり、拒否をされた場合は翌日に変更するなど、安全で無理強いく入ってもらえるようにしている。以前、夕方からの支援について検討したが、職員体制の面から実現には至っていない。	音楽を流しながらの入浴も行われたようである。今後も個々に応じ、楽しみとなる入浴支援に取り組まれる事を期待したい。その方の誕生日には特にゆっくりと、職員のアイデアを活かした入浴支援に努める等も良いと思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの室温、居室の明るさ等調整を行っています。朝の起床は起きれない方はその時間に無理に起こさず見守っています。午後からの活動に向けほとんどの方が昼寝をされています。入床時間も様々であります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導があり、薬について相談行っています。又処方変更時はクリニック受診後情報共有しています。服薬を間違えないよう、入居者様の薬袋、名前、顔を見て声に出し確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の身体機能や好みにあわせそれぞれの役割を生活の中で活かしています。又みんなでやることで、互いに励みになり意欲もみられできる事でご本人様の意欲を高め、満足にも繋がっているように見受けられます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の関係で外出はできていません。気候の良い時はホーム周辺を散歩しています。唯一移動販売があり、外出とまではいきませんが、週1回買い物されたり、行きつけの美容室に行かれたりご家族様にも協力頂いています。	コロナ禍にあり以前のような外出は控えているが、リビングからすぐに出れる環境にあり、敷地内の散歩は継続して取り組んでいる。梅の実りを見て「もったいなか～！」と言われる方もおられるようである。定期的な交流室でのコンビニ移動販売は、お隣さんへの外出として楽しみにされている。また、行きつけの美容室など状況に応じて家族の協力が得られている。	入居者より「新しくなった役場に行ってみたい！」の声が出されており、コロナ終息後の実現が期待される。今後も入居者の行ってみたい所など、日頃の関わりの中で引き出し実現に繋がることを期待したい。また、あらたまった外出だけではなく散歩や外気浴など普段の取組について、家族へ伝える事で安心に繋がると思われる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様から定期的にお小遣いを楽しみにされている方いらっしゃいます。又、買い物などの目的は無くても手元にお金がある事で安心されている入居者様もいらっしゃいます。あえてご本人で管理して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会時は電話での会話みられています。その際はテラスの窓越しではありますが写真を撮り、ご家族様に渡しています。又イベントの際はご家族様からの贈り物と共に、手紙も添えてあり何度も読み返され、いつでも見れるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気、気候に応じて空調管理を行い自然の風や気候を肌で感じて頂いています。又室内には季節感を感じられるよう、飾りやカレンダー入居者様自身作成し掲示しています。又朝からはアロマで気持ちを落ち着かせたり、気分を高めれるよう、毎日匂いを変え過ぎて頂いています。	感染症への対応として掃除や消毒、自然の風も取り入れながら換気や室温調整が行われている。換気は、音楽療法士が作成した音楽を流しながら実施しており、入居者も換気の時間を理解され、職員も意識付けとなっている。リビングや廊下には季節の飾り物や入居者と一緒に作成したカレンダー、活動の様子を写した写真が掲示され入居者も移動の際、足を止め眺められている。席の配置は入居者の身体状況や相性なども考慮し決定している。	身体機能の低下からリビングの席や居室に、つかまり棒が設定されるなど、居心地の良さと安全面に配慮した空間作りに努めている。継続した取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの食事の席は決まっています。そのほかはソファに座られたり、居室で新聞やテレビを視聴したり、自分の空間をその方のとりたいときにとれるよう、支援しています。時には居室で入居者様同士が話をされている時もあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用されていた、ソファやテレビ、仏壇等ご本人様が利用しやすいよう、配置しています。又ご家族様との写真もいつでも見れるようにしてあります。寝具類も季節に応じ、交換し又使い慣れたものを使用しています。	居室の位置により採光に差異はあるものの、使い勝手の良い広さでどの部屋からも緑の樹木が眺められる。以前に比べプラスチックケースを収納に使われる方が多くなり、普段使用しないものはクロゼットにしまわれている。家族の協力として衣替えや加湿器の準備、好きなテレビ番組の伝達をはじめ、毎週雑誌を届けられる家族もおられる。持ち込まれた家族の写真に安心されたり、仏壇に毎朝手を合わせる方など、それぞれの居室環境で過ごされている。	ベッドの向き、車いすの出入りのしやすさなどを検討し、法人の理学療法士職からも直接、居室空間のアドバイスを受けている。引き続き家族の協力も得ながら個々に応じた居室作りに努めていかれる事を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室はご本人様が使いやすいよう家具類などは設置しています。リハビリ職員と相談し、安全な環境整備を行っています。又共有のスペースはわかりやすいようにご本人の了承を得て、椅子等に名前の掲示をしています。		